

1.1.2.6-05

「へ」と「に」の使い分け

1.1.2.6-05_「へ」と「に」の使い分け_ナレッジ



「へ」と「に」が示すもの

「・・・へ」

動作の方向を表現し、移動や変化の過程を表す傾向がある。(事態の進化)

「AからBへ」構文あるいは「AをBへ」構文をとりやすい。

「・・・に」

動作の到達点を表現し、移動や変化の結果を表す傾向がある。(事態の収束)

「AがBに」構文あるいは「AをBに」構文をとりやすい

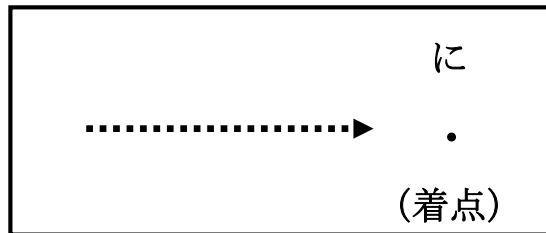


図1「に」のイメージ

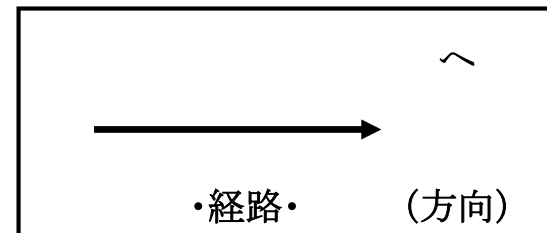


図2「へ」のイメージ

1.1.2.6-05_「へ」と「に」の使い分け_ナレッジ

👉 「に」を使う場合 …… 対象がはっきりしている場合

特定の場所、他のどこでもない場所など

👉 「へ」を使う場合 …… 対象がはっきりしていない場合

方向や方角、大まかな地域など

例文

① 「に」を使った場合 : もしよければ、私の実家に来てください。

② 「へ」を使った場合 : もしよければ、秋田へ来てください。

解釈: ①の文では、対象がはっきりしています。

おそらく「私の実家」は一箇所しかないでしょう。

それ以外に対象となる場所がないということで、「に」を使います。

②の文では、「秋田」となっています。

広い範囲を指しているので、使う助詞は「へ」が適切です。

※例文の「に」や「へ」を入れ替えても間違いではない

1.1.2.6-05_「へ」と「に」の使い分け_応用例

👉 「に」を使う場合……着点「に」以外のうち目的地以外の場合

例1. 絵を壁にかける。

解釈:この場合「に」は着点を表す。着点「に」以外のうち目的地以外のものは「へ」で置き換えにくい。「絵」と「壁」の密着性が「に」によって示されるとも言える。

👉 「に」を使う場合……心理的距離の近い同等或いは対等の人間関係の「友達」に対する場合

例2. 友達にかける言葉。

解釈:例2は人間関係における行為の対象を示す。
「に」が心理的距離の近い「友達」に対して用いられた例である。

👉 「へ」を使う場合……心理的距離の遠い人に対する場合

例3. ご遺族へかける言葉。

解釈:例3尊敬の意を表す接頭辞「ご」がついているため、心理的距離の遠い人に対する場合など「へ」に用いられる。

1.1.2.6-05_「へ」と「に」の使い分け_ナレッジ

👉 文中で同じ助詞が重複しないことが重視されます。

※話し言葉上では「同一の助詞の連用には違和感を感じやすい。

日本語文法上は同一の助詞の連用が許されますが、

話し言葉で連用しますと聞き手としては文意の把握が難しくなっていきます

例文

- ◆マクドナルドに^{ピンク}行く。
- ◆ポテトを買いに^{ピンク}行く。
- ◆マクドナルドへ^青ポテトを買いに^{ピンク}いく。

👉 ただ、「へ」と「に」は、入れ替わっても、意味が通じる場合がある。

例文

- A) お客様へ(に)漢方薬をすすめる。
- B) 忘れ物をしたので家へ(に)戻った。
- C) 友人がヨーロッパへ(に)留学する。

解釈: A)とB)は、「に」を使うのが通例ですが、「へ」でも、意味は通じます。

C)の場合は、「ヨーロッパへ」にすると、方向を示す意味でヨーロッパとなりますが、
「ヨーロッパに」とすると、他の国ではなく、ここ！というその人の意志が伝わります。